

# 論壇



●美頤歯科医師会会長  
宝崎 錠一

## 介護保険制度で 気になること

かつて、イギリスには「ゆり籠から墓場まで」と言う、社会保障制度があったように記憶している。その後、何度か政権が変わり、どこまで実行されているのか不勉強だが、このような素晴らしい社会保障制度が、世界からあまりお手本にされていない所を見ると、経済的にバランスがとれなかったのではないだろうか。日本も遅ればせながら介護保険制度なるものが、やっと1年後に実施されようとしている。

「ゆり籠」の方は、もともと親が付いているから少ない予算で益々手厚い保護がされていると思うが「墓場」の方は如何だろうか、大変気になる所だ。行政は日が近づくにつれ、色々な創案を呈してきているが未だ明確でないものが多い。無から有を作り出す作業であるから、やむをえない面もあるのかも知れない。

一番心配なことはサービスの内容よりも、保険料と国の公費（補助金）にあると考えている。高齢化社会が今以上に進展する21世紀は、医療福祉の重要性が益々叫ばれるのは間違いないのであるが、少子化若年層の減少からくる経済構造の変化や重なる不況等で介護保険に係る資金が調達出来るのか、はなはだ心配である。要介護者の一部負担金は1割とのことであるが、保険料の負担は、市町村によって大きく異なると言う。理由は種々あるようだが、人口と高齢者の割合や要介護者の数との関係、とりわけ、過疎の町は高めになることはまちがいないと言う。地域によって負担が大きく違う事は、保険の費用負担の公正さからして問題が残るのではないか。また費用負担が大きくなれば、要介護者として認定されても拒否する者も出てくることは容易に考えられる。すでに、ヘルパー利用者の中には、「介護保険になったら来てもらわなくてもよい」と言っているお年寄りもいるとの報道もある。（保険料を負担していても受けられない者）それよりもなによりも、保険料を負担出来ない者の割合が増大する恐れがあるのではないか。これら弱者救済制度が当然必要となって来るであろう。いわゆる国がどこまで弱者救済に補助金を出すことが出来るのか。

消費税を目的税にせよ、と言っているのもわからないでもない。仮に全てが官僚の思いどおりに要介護者の満足の出来るように進んだ時、消費税率が15%以上になっているかも知れない。各市町村では、すでに介護保険料の試算が行われている。国の試算では平均月2千5百円くらいとの事であるが、実際は、65歳以上の保険料で4千円から6千円にもなっている。この格差の問題は先にも述べたが、最も大きな理由は、数多くある介護サービスの種類を、保険としてどこまで供給するかによって決まる問題だと考えている。施設サービスの数が少なく、在宅サービスの少ない町村は保険料は安く、その反対の所は高くなるのは当然である。保険料一つ取り上げても色々な問題を含んでいる。国は、所得に応じて5段階の保険料としてさらに木目細かな弾力化を図っている事は評価出来る。しかしその負の部分の補う資金をどうして調達するかが最大の問題点であろう。それは、増税の道しか残っていない事は誰もが承知している。不幸にして自分が介護を受ける時に、最低のサービスでよいのか、最高のサービスがよいのか、よくよく考える必要がある。介護の種類によっては、現在の歯科診療のように自費となる可能性もありうるからだ。国はもっと時間を掛け、充分国民に理解が得られるよう説明する必要がある。内容が良く理解されず保険料だけが全面に出て来るようであれば、悪戯に高い安だけの感情論になってしまう恐れがある。何故高いのか何故安いのかを良く説明しなければならない。

人は皆、死を迎える。そのわずかの期間介護が必要となった時、他人にあまり迷惑を掛けず、人間の尊厳をもって死の世界に旅立つことが出来れば、こんな幸いな事はないと思う。その為の準備は、どなたにも必要なことであろうが、せめて、この時くらいお国のお世話になりたいものである。冒頭の「ゆり籠から墓場まで」は人間社会の理想ではあるが、あまり理想に近すぎると、国民の労働意欲をなくし、国の衰退につながりかねないのではないか。イギリスもこの事を学んだにちがいない、何事もほどほどに願いたい。

近頃、介護保険等に関する集まりに出席して感ずる事は、残念な事に、各関係機関がばらばらに、自分に関係する事に熱心で、他の機関との関係にはあまり知ろうとはしない感じがする。他の機関については、良く知らないということであろうが、それ故お互いが率直に意見を交換し合い進めて行くべきと思うが、福祉関係者は医療専門事項を勉強しているのか、また医療関係者は、福祉専門事項をどれほど知っているのか、はなはだ疑問である。もっともっと突っこんだ議論を行い、現場の実状を知ってもらえるような研究会での勉強が必要ではないか。その中での歯科関係は今のところ大きく遅れているように感じている。